



おひざのうで

(副園長の子育ておうえん通信)(30年6月)

「遊びを豊かにする保育環境」



せんりひじり幼稚園

副園長 安達かえで

先日の参観日には、ご参加いただきありがとうございました。田代幸代先生のご講演はわかりやすく、幼児期に遊び込むことの大切さや、結果ではなく過程の大切さを事例と共にお話ししてくださいましたよね。その後の参観で、保護者の方々の、子どもの試行錯誤を見守ってくださるまなざしがとても温かく感じました。午後は職員に「環境の構成を工夫し、遊びを充実させよう」の研修をしていただきました。

子どもが過ごす環境の構成は数年前に力を入れましたが、新たな課題が見つかる(すべて子どもの育ちに関係していますが)いつしか環境構成が二の次になっていたような気がします。今回、田代先生の研修で改めて保育環境の大切さを感じました。そして更に新たな刺激をいただいたのは、他園の見学です。代休の日は、若手を連れて金沢の木の花幼稚園に見学に行きました。木登りの為の縄梯子、園庭を回る面白い回廊、竹で組んだテントのようなもの。何にでも使える切り株。子どもたちは手慣れたものです。縄をつかんでひょいひょいとツリーハウスの3階まで上がったり、重い切り株を抱えて運んだり、ぐらついた回廊の不安定さを楽しみながら渡ったり、土、砂、水、木切れを使っておままごとや感触を遊んだり、水の流れを楽しんだり、そこには、様々な使い方ができる道具があり、子どもたちの遊びの深まりを助けていました。木の花幼稚園のような園庭環境だったら、遊んでいるうちに、つかむ・引く・登る・バランスをとる・飛ぶ・回るといったような体の動きを知らず知らずのうちに身に付けることができるし、その上とっさの判断でどのようにこけたら怪我をしなくて済むか・・・ということも身をもって覚えていくのだろうなと思いました。

また、他の何人かの職員は尼崎のはまようちえんに自主的に見学に行かせていただきました。子どもの遊びがユニークでダイナミック。生活も自分たちで考えて、自分達で実行していくたくましい子どもたちを育てるステキな園です。

遊ぶ環境からも多くの刺激をいただいたようで、次の日から早速園内のあちこちでおもしろいコーナーを作っていました。子どもが育つワクワクするような環境は、大人にとってもワクワクします。園庭ではビールケースと板でおままごとのテーブルを作り、葉っぱのお皿にかわいいお団子に乗せてお団子屋さんが始まったり、雨の日の吹き抜けでは、ボンドを筆で縫って削ったクレヨンをふりかけ、出来た色や形を楽しむコーナーや、様々な植物の香りを感じるコーナー、2階テラスの軒下にラタンの椅子とパーティションを置きシフォンの布をかけてグリーンを飾り、まるでリゾートホテルのカフェ。そこでお店屋さんやプリンセスごっこが始まったりしています。イメージの広がりや友達とのやり取りが豊かに膨らんでいくために必要な環境の一つは、様々な使い方が出来る「モノ」であり「場所」です。そこで関わる「ヒト」の大切さはよくお話ししますが・・・これから、またどんな仕掛けが始まるのでしょうか。ワクワクしてきました。

.....
(おひざのうで6月号) ご意見や感想があれば是非お書き下さい() ()